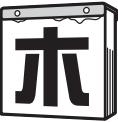


なめらかなアルペジオは、ピアノ奏法中の憧れ度ナンバー1！まずは、手の中に納まるアルペジオを意識したトレーニングをしましょう。和音が分散したもの、ということを忘れないで、手の中での動きは随分とラクになります。ペダルのタイミングも大事です。イメージはハープのように美しくなめらかなアルペジオ！

check!



check!

68  
365

## 伴奏タイプ

Track 070

♩ = 80

よくあるパターンの伴奏型です。1~2拍目にある4つの音量とエネルギーを順に数値化すると、80、60、50、40のような感じでしょうか。アルペジオ内の音を、同じ質感で80、80……、と弾かないように意識します。



check!

69  
365

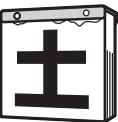
## 往復タイプ

Track 071

♩ = 60

アルペジオにも強弱をつけてみましょう。3~4拍目にかけて緊張感を手の中に持つて、和音の響きを感じてください。

両手強化



check!

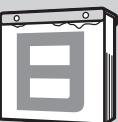
70  
365

## 粒立ちタイプ

Track 072

♩ = 60

左手に保持音があります。ペダルはなし！にしてシビアに粒立ちを整えて弾いてみましょう。6連音符も1拍の中になめらかに組み込んでください。



## アルペジオが美しくなる手首の下回転、上回転

手の中に収まるアルペジオ（ひとまとまりのアルペジオ）を表現するのに、軽い手首の回転が必要な時があります。下回転（a）と上回転（b）の2種類があり、どちらも使えるようにしておきたいものです。

曲の中では、どうやって見分けるのか？それは、音楽の解釈の仕方で何通りも考えられます。一筋縄ではいかない解釈のあれこれ……。とにかく、どちら回転でも対応できるテクニックを身につ

けておくに越したことはないのです。

